

The Japan Interior
Designers Association
Monthly Report
No.247
Jan, Feb, Mar, 2010

JID news

JID月報：通巻247号
平成22年1月・2月・3月号
発行日：平成22年3月31日

発行：(社)日本インテリアデザイナー協会
〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー8F
電話 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559
発行人：酒井正人

社団法人日本インテリアデザイナー協会

目次

巻頭：トップコラム

平成21年度 第5回理事会報告	2	事務局からのお知らせ	15
公益法人制度改革特別委員会報告・退任挨拶	4		
本部報告(総務委員会)	5		
// (国際委員会・特別事業委員会)	6		
// (選考委員会)	7		
トピックス	8		
支部活動報告(関東事業支部)	9		
// (中部事業支部)	11		
// (九州事業支部)	12		
// (関西事業支部)	13		
MEMBER'S SALON	14		
JIDの新たな門出に(新・会員の声)	15		



理事長

酒井 正人

未来へ向けて…… さらに魅力あるJIDへ

JID News No.241(2008年9月発行)より「理事長コラム」としてJIDの方針や私の考えなどを発信させていたしましたが、月日が経つのは本当に早く、今回にて私の「理事長コラム」は最終回となりました。この3月にて2年間の理事長任期が満了となり、4月からは、次期理事会の理事として新役員体制のなかで、引き続きJIDのさらなる進化のために頑張っている所存です。2年間は長いようで実際にはあっという間でしたが、この間の皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この2年間は世界の経済不況や日本の政治社会にも大きな変化があり、私達インテリアデザインの仕事環境

においても様々な変化や経済的不況が直撃しました。そして、JIDの組織運営においても財務面や会員減少傾向など、この状況が少なからず影響を及ぼしたと感じます。しかし、そうした状況下でもJIDが創立50周年の様々な企画イベントを盛大に実行し、その後もさらに進化をするために、会員の皆様による新たな事業企画や新たな魅力を創りだすことへの行動が継続されていることは、個人的にもたいへん心強く感じ、その一つ一つの行動が、今後JIDの発展に繋がることを確信するに至りました。

前回にも申し上げましたが、私は、伝統あるJIDにふさわしく未来へ発展できる組織、会員が魅力と誇りをもって活動できる組織へ、そして、日本を代表するインテリアデザイナーの職能団体としての機能をより強化することに、今後も理事として引き続き取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事会報告

平成21年度 第5回理事会

日時：平成 22年1月22日(金) 15:00～17:00

場所：社団法人日本インテリアデザイナー協会

本部事務局隣 OZONE 会議室

出席：理事長 酒井 正人

副理事長 阪井 良種、清家 淳一

理事 安藤 清、安藤 眞吾、小野 由記子、
川崎 泰秀、佐藤 健一、長岡 貞夫、

中田 重克、村口 峯子

監事 宇賀 敏夫、川上 信二

顧問 川上 玲子

事務局長 峰尾 武

I 報告事項

- [1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- [2] D-8 ジャパン・デザイン・ミュージアム「パイロット展」について
- [3] 平成21年度収支状況報告(21年12月末)
一般会計・特別会計
- [4] 内部留保関連について
- [5] 財務運営資金繰り(21年12月末) 本部・特別会計
- [6] 平成22年度予算編成について
- [7] 公益法人アンケートについて
- [8] 次回会議予定

II 議題

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件、年間会員異動状況
(21年1月22日現在)

第3号議案 議事録署名人選任の件

I 報告事項

- [1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(村口)

平成21年度第5回運営委員会11月18日に開催。

1. 総務・組織委員会：日本の意匠「温故知新」物語第1話を4月23日に決定、テーマ・超ハイテク新素材、ポリエステルナファイバーの話が霞ヶ関ナレッジスクエアで予定。講師にティジンファイバー(株) 神山三枝博士他パネリスト2名、及びティジンショールームツアー予定。日本の意匠「温故知新」第2話を秋に予定、伊勢神宮にまつわる講師パネラー交渉中、旧トレンドセミナーに代わる新企画である。又九州事業支部川崎理事より上記セミナーの開催を検討したい旨申し出あり。その他芝浦工大学生よりACTに関し問合せあり、ACT再構築について支部内で協議の必要あり。
2. 事業委員会：ワークショップ「空間の知能化とデザイン」芝浦工大にて12月19日実施、参加30名(学生8名、大学14名、JID 8名) 報告書3月末予定。

12月5日応募の千葉県域活性化プロジェクト、子供夢基金「森の中の夢」12月25日閣議決定、4月上旬に向け審査中。

1月15日 申請、ハウジングアンドコミュニティ財団(長谷工) 第18回「住まいとコミュニティ作り活動助成」助成100万円合格率3/150、応募内容ローカルポケット「街創り絆ネットセンター」実施予定地域結城市中心市街地。

3. 広報委員会：賛助会員ホームページについて1月説明会に出席できなかった企業約45社宛アンケートまとめ中、正会員ホームページ12月2日アップ、次回4月4日アップの予定。
4. 国際・交流委員会：本部国際交流委員会連動、学生ワークショップは本部IFT報告会準備のため中止、「デザイン職人四方山話」は延期、来期活動検討会議を行う予定。
5. 関東運営委員会：本部特別事業、本部的な事業について本部と支部の関係がどうあるべきか次回検討。
関東財務について、次年度予算計画修正の件(公益事業仕分け) 及び支部活性化等を今後検討。

◆中部事業支部(安藤清)

1. 1月9日「中部ものづくり探訪見学会」(株)ワーロン清洲工場。
2. 12月14日 12度役員会・定例会実施、経産省主催知財セミナー「今、インテリアデザインに求められるもの～」候補者選定、22年度役員選挙、ID連絡会第6回セミナー、4月2日 瀬戸昇「IA住宅インテリアレポート」予定。
3. 1月13日 初回「中部インテリア関連新年互例会」。
4. 1月18日 1月度役員会・定例会実施。
5. 1月29日 インテリア産業協会「新春会員情報交流会」参加。
今後の予定
1. 2月10日～15日「キッズ・デザイン2010 chapter “空間デザイン編”」「シード・オブ・デザインこどもと創るデザイン・こどものためのデザイン」中部会員4名出品。
2. 2月15日 2月度役員会・定例会予定。
3. 3月15日 3月度役員会・定例会予定。

◆関西事業支部(安藤眞吾)

1. 総務・広報委員会：12月18日 支部運営委員会開催、新役員予定者会議開催。
1月15日 e-ECHO第8号(通算34号) 編集委員会開催。
2. 研究委員会：「セカンドライフの住まい展」「日本の空間デザイン展2009」内にて開催。
3. 事業委員会：「セカンドライフの住まい展」具体化に向けて努力。
4. JID-ACT kansai：定例会議開催予定。
今後の予定
1. 国際委員会：IFTドバイ関連のフォロー。
2. 研究委員会：「セカンドライフの住まい」報告まとめ作業。
3. 中四国委員会：3月27日、広島縮景園(茶人上田宗簡作庭) 見学会。
4. JID-ACT kansai：定例会議開催予定。

◆九州事業支部(川崎)

1. 11月10日 九州事業支部役員選挙実施、11月24日 投票締切り、11月下旬 選挙監査、前崎、佐藤、菅原事務局長で開票。
今後の予定
1. 2010年1月26日(火)～30日(土) 第8回一学生が提案する、

新しい「座る形展」開催予定(九州産業大学美術館3Fオープンギャラリー)。

2. 2010年1月30日(土) 第5回学生ファニチャーデザインコンテスト開催(九州産業大学美術館3Fオープンギャラリー)交流会にて結果発表及び表彰式予定。

3. 2010年1月30日(土) 第4回例会(福岡)予定、①次年度役員・組織検討、②次年度予算修正、③公益法人改革問題、④HPの更新、⑤会員、賛助会員の勧誘の方策、⑥次期例会について、⑦その他ACTの会等を検討。

4. 2010年2月 今期次期役員予定者合同会議予定。

5. 2010年2月又は3月に例会予定。日本の意匠「温故知新」物語の九州開催を積極的に検討。

◆本部総務委員会(中田、佐藤、川崎)

委員会開催、12月15日

1. 2010年1月22日開催のJID NEW YEARS PARTYの運営。

2. JIDビジネスパートナーズ、E-mail news『新春あけましておめでとう』新年号を1月13日に正会員に配信、参加賛助会員13社の年頭コメント及びホームページ紹介。

◆本部国際委員会(小野)

1. 2009 IFI総会及びデザイン・コンGRESSが2009年11月7日～11月10日にかけてUAEドバイで行われ、JID代表として本部国際委員会委員長 大森清次郎、同副委員長 森美香子、関西国際交流委員会委員 ペリー史子が参加。

IFIデザイン・コンGRESSにおいて、JID推薦の清水建設・関雅也氏が茶室をテーマに講演を行った。講演の中で“おもてなし”を説明するにあたり森美香子、ペリー史子両会員が着物姿で登場し華を添えた。

その他、デザイン・コンGRESS以外のソーシャル・イベントにも積極的に参加、JIDの存在をアピールするとともに、世界のデザインの潮流、デザイン協会の現状などを話し合い、今後JIDの国際活動のみならず日常の活動にも生かすことを考える。

2. 12月9日 国際委員会を開催、2010年2月にIFI総会及びデザイン・コンGRESSの報告を兼ねセミナーを行うことに決定JID会員以外にもJIDの国際活動、貢献をアピールすることを検討。

3. IFI報告会及びセミナー2月4日(木) 日本オラクル(株)のご協力を頂き、オラクル 青山センターで開催決定、JID会員30名、一般70名程度の報告会、セミナー、懇親会を行う。

◆本部広報委員会 インターネット(安藤眞吾、安藤清、川崎)

1. ホームページ本部支部一体化計画、事務局サーバー問題等来年度予算化を含め検討。

継続事項

1. JAGDAのイントラネットとの提携について検討。

2. 英文ページの内容充実。

3. 支部ページとの連携推進。

4. 本部メールサーバーのメンテナンス業務について検討。

◆本部広報委員会 JID News(安藤眞吾、安藤清、川崎)

1. JID News 246号 12月末発行(500部)。

今後の予定

1. JID News 247号

1月29日(金) エントリーお知らせ、2月5日(金) 編集企画会議、

2月12日(金) エントリー締切り、2月26日(金) 原稿締切り、3月19日(金) 編集校正会議、3月末発行予定。

◆選考委員会(長岡)

1. 入賞者に贈る賞楯を作製大賞は樂吉左衛門氏及び竹中工務店内海慎介氏の2名に贈り、計5個制作。

2. 入賞作品リーフレットは今回木村委員長がデザイン、印刷のみ外注とし経費を節減した。

3. 2010年JID賞ビエンナーレ入賞作品展を1月21日(木)～2月2日(火) OZONE 7F リビングデザインギャラリーで開催、作品パネルは従来入賞者に依頼、制作していたが今回はJID側で準備、費用を節減した。

◆特別事業委員会・こどもインテリアデザイン学校委員会(村口)

12月11日(金) 委員会開催。

1. こどもインテリアデザイン学校「小平」について：各日の担当講師は次回委員会でスケジュール調整の上決定、募集告知は小平市広報(12月15日号)に掲載予定。

2. こどもインテリアデザイン学校「世田谷」について：区立池之上小学校BOPと日程等について打合せ、新BOPは4月にたてられるので、あわせてアピールすることも可能とのこと。

今後のスケジュール

1. 小平市中央公民館 2010年2月13・20・27(土)の3日間。

2. 世田谷区立池之上 2010年3月3・10(水)の2日間。

来年度継続について今後検討。

[2] D-8 ジャパン・デザイン・ミュージアム「パイロット展」について(阪井)
阪井副理事長が現況について説明、2010年9月 ミキモトホールで開催予定で各役員に協賛を要請。

[3] 平成21年度収支状況報告

事務局長より21年12月末の収支状況(一般会計、特別会計)について説明。

[4] 財務運営資金繰り

本部21年12月末及び特別事業の12月末状況について事務局長より説明。

[5] 特例民法法人概況調査(経済産業省提出)及び内部留保について
特例民法法人概況調査(20年度決算)内部留保の内容及び経済産業省より各団体への指導について事務局長より説明。

[6] 平成22年度予算編成について

平成22年度予算編成について現在の状況を事務局長より報告今後本部各委員会、各事業支部からの再提出により調整及び22年度組織対応について検討予定と説明。

[7] 公益法人改革アンケートについて

今後各会員よりの意見を総合的にまとめ直す。

[8] 次回会議予定

●第3回次期役員予定者会議

平成22年3月2日(月) 18:00～20:00

●第4回次期役員予定者会議

平成22年3月26日(金) 13:00～15:00

- 平成21年度第6回理事会(新旧合同)
平成22年3月26日(金) 15:15~17:45
(公益法人制度改革委員会会議は理事会内にて扱う)

以上につき理事会了承。

Ⅱ 議題

◆第1号議案：後援・協賛名義承認の件(4件)

『JIPA in 奈良 1300 “日本の心と文化”』……………後援・継続
『第4会サステナブルデザイン国際会議
“Destination2009-2023”』……………後援・継続
『第2回JIDAプロダクトデザインセミナー』……………後援・継続
『創展 2010-ATC関西学生卒業作品展 vol.15』……………後援・継続

◆第2号議案：会員入退会承認の件(2件)

- 正会員 退会(1件) 1070 宮崎 眞里子(九州)

- 正会員 退会(1件)

以下定款8条2項(4)により退会したものとみなす。

0906 七條 健(関西)

年間会員異動状況(平成21年度第5回理事会現在)について事務局より説明。

◆第3号議案：議事録署名人名選任の件

小野由記子理事、佐藤健一理事を選出。

以上につき理事会承認。

公益法人制度改革特別委員会

「公益法人制度改革・特別委員会」報告

理事長／特別委員会 委員長 酒井 正人

1. 2009年12月に実行させていただきました「アンケート」結果について

※アンケート回答者数：

53名(正会員43名 賛助会員10名)／回答率17%

- JIDは公益社団法人と一般社団法人のどちらが適していると思いますか？

A. 公益社団法人……………17名(正会員14名 賛助会員3名)

B. 一般社団法人……………22名(正会員18名 賛助会員4名)

C. どちらでもかまわない 14名(正会員11名 賛助会員3名)

- JIDの事業活動について

A. 積極的に参加協力したい……………15名

B. 事業活動はあまりできないが協力したい……………33名

C. 情報だけ知りたい……………5名

以上のような結果とともに、ご回答いただいた方の多数の方々よりJIDの今後について貴重なご意見を頂きました。

ご回答いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。アンケート結果と貴重なご意見を十分に検討し、今後の公益法人制度改革への対応に役立たせていただきます。

2. D8・日本デザイン団体協議会の状況について

3月4日にD8(デザイン8団体)代表者が集まり、公益法人制度改革について各団体の近況報告及び情報交換会を行いました。現在、申請した団体はありませんが、JIDA(日本インダストリアルデザイナー協会)が今年6月の総会を経て年内中に公益社団法人への申請を行うことを表明されました。

また、前回まで公益法人化を表明されていたDDA(日本ディスプレイデザイン協会)は、これまで準備をしてきた結果、公益法人への申請がたいへん困難である状況を把握し、現在再検討中であることを報告されました。前回、一般社団法人の選択の可能性が高いと報告されたJPDA(日本パッケージデザイン協会)は、今回もどちらかという一般社団法人への可能性が高い状況であると表明されました。他 JID、JAGDA、JCDA、JJDA、SDAは、ほぼ同じ対応状況で、今年度中に方向性を決め来年度の申請を予定する報告を行いました。

なお、今後、各事業支部のエリア(中部・関西・九州)における他団体の動向などもリサーチし、参考にしたいと考えておりますので会員皆様のご協力をよろしくお願い致します。

退任のごあいさつ

理事の任を終えて

理事 長岡 貞夫

ゆく河の流れは絶えずして
しかももとの水にあらず
よどみにうかぶうたかたは
かつ消えかつ結びて
久しくとどまりたるためしなし

このたび理事の任を終えるにあたって、つれづれなるままに会員としての三十七年余を振り返ってみようとおもいます。まず、今の心境を鴨長明「方丈記」の一節に託します。

ところで、1973年の入会以来、何でも視てやろう性分と好奇心から、多くの委員会活動にかかわり、のめり込みました。悪友曰く「趣味はJID?」と揶揄される所以です。70年代はまだデザイン界は

発展途上で、「これで良いのかデザイン、ナー」的状況(懐疑感がある一方)、誰でもがデザイナーの置かれている社会的地位と経済的状況を改善しようとの強いモチベーションが行動を駆り立てるエネルギーの源になっていました。

当時のJIDの仲間の多くも「どうにかしよう」的共通認識の同志的絆で結ばれ、書生ボイ議論も含めて熱く語り、正・反・合の試行錯誤を重ねながらも、それぞれの立場から社会に向けて(問題提起をしながら)発言してきました。などという、昔と今は違うと—「流行」—そのとおりです、とも言えるし、いや今も昔も変わらない「不易」とも言えるのです。

「不易・流行」とは芭蕉の俳諧精神の真髄といわれます。「不易」は時代を超越した普遍的な価値を指し、「流行」はその時代の背景で時の潮流や現象のことです。

デザインをこの「不易流行」に照らせばデザイン像が見えてくる

ような気がします。そして、デザインとは、対象に対してデザインという思考を通して絶えず問題提起する創造的所為ではないでしょうか。

理事3期6年終えて…

理事 安藤 清

1970年3月入会以来40年、ゼネコンインテリアセクションの真只中、協会活動まなず、そうそうたる諸先輩の活動を目標の日々としてまいりました。先輩支部担当理事、支部長の多大なご尽力にいまさらながら感謝いたします。

25年目、IFI名古屋1995での交流委員長から参加でき、今まで果たして会務が出来たかは後輩の判断にゆだね新理事にバトンを渡せました。40thの「日本の生活デザイン」展の東京展以外唯一名古屋展が開催出来たことが強烈に印象に残っています。

生活デザイン=LIVINGはING進行形のエンドレスの行為、必ずリファインチャンスがあり、そのため日々の探求者でありたい。2008年 JID 50thを経てその間インテリア関連資格団体が出来ましたが、日本で最初のインテリア任意団体、この協会の更なる継続が日本にインテリアを根付かせることでもある。

理事拝命1期を経て

理事 川崎 泰秀

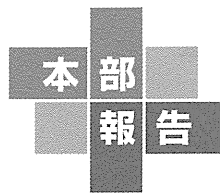
「これまで」過去四半世紀25年間程度の社会背景・経済動向がインテリアデザイン全般とJIDに与えた影響の分析(時代背景とJIDの同時代事業を重ね合わせて振り返り、今後の活動として生かす)。

「これから」①環境・循環型社会に適應するデザイン ②少子高齢社会とデザイン ③近年のデフレ現象へのデザインの対応 ④価値観多様化時代のデザイン ⑤戦略にデザインを主要素として国際間競争に挑む韓国はじめ新興国デザインの台頭とジャパンデザイン。

これらを見据えて「これまで」の総括の上に建つビジョン構築と活動を目指すことが重要だと考えます。

新事業として、若年デザイナーを対象にインテリアデザインコンペの企画を提案します。これはJIDの社会的認知度向上と同時に、有望人材発掘・若年会員勧誘に繋げる目的も持たせます。組織・予算編成見直し、年会費・国際活動(IFI対応・APSDA)、理事会、総会内容と時間配分(報告承認事項は極力簡略化し法人制度問題、組織、財源、活性化対策、広報・HPの充実等、課題解決に向けてより多くの時間を充て有為な意見の露出を図る)の検討も必要です。

九州事業支部は実働会員が少数で身の丈活動を目安とせざるを得なく、50年事業以来特筆する活動が無く、事業企画は他団体とのコラボ等に道を見出すことを前提としなければならない状況ですが、次年度新役員の皆様と一致協力して事業と諸課題に取り組む所存です。



総務委員会

担当理事：中田 重克
委員長：井出 昭子

2010年 NEW YEAR'S PARTY のご報告

本部総務委員 道明 三千代・秋山 修治

21世紀の1つの区切りである2010年のJIDニューイヤーズパーティーが1月22日(金)午後6時30分より新宿パークタワーB1階の「カフェーズ」で開催されました。

酒井理事長の挨拶のあと、来賓の代表として(社)日本工業デザイン協会理事長の浅香崇様からの祝辞は、いま各団体が置かれている法人格の認定・公益法人か、一般法人かの話題をふくめ今後のデザイン団体が志向する共通の悩みや、その対応手法などについての話へとのおのずから進展する事となりました。

続く、(社)日本サインデザイン協会・会長の横田保生様の乾杯のご挨拶の中にも同様の事柄があげられ、各団体とも今後の事業や活動への方針・方策に腐心されている事がうかがえるものでした。

そのあと、当日行われた2010年JID賞ビエンナーレ贈賞式にて大賞を受賞された(株)竹中工務店大阪本店設計部、内海慎介様(写真左)より、佐川美術館・楽吉左衛門館のデザイン理念やエピソードなどが披露されました。



和気あいあいの歓談風景

つづいて、新入会員、賛助会員の紹介などが行われ、参加者の歓談へとすすみました。

会員(正・賛)、招待者(JID賞受賞者を含む)を合わせ80名の参加者の方々が新春の夜を和やかに過ごす事となりました。阪井副理事長の閉会挨拶をもって盛会の幕を閉じました。

本部報告

国際委員会

担当理事：小野 由記子
委員長：大森 清次郎

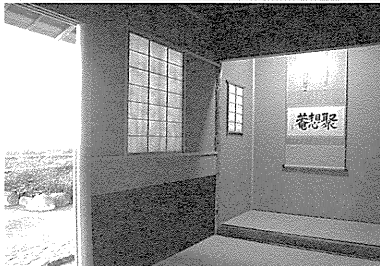
IFI-dubai 2009の報告会

本部国際委員会 副委員長 森 美香子

IFI (International Federation of Interior Architects/Designers) の報告会と、オフィス・インテリアについてのパネルディスカッションを2月4日(木)に、東京青山にある、日本オラクルのセミナールームで行いました。『IFI-2009-Dubai報告』は、スライド写真で、会場や総会の様子を紹介しながら、今後のビジョン、IDAとの連携案、次期ボードメンバーとプレジデントエレクトの選挙結果について報告しました。JIDをアピールするために、各国代表に「日本のデザイン50年」誌を持参したこと、デザイン・コンGRESSで、JID推薦の関雅也氏の「高層ビル内の本格的な茶室」の講演の中で、ペリー史子さんと私が「和のおもてなし」について、和服でスピーチし好評を得たことも報告致しました。



ラウンジでの交流会



オラクル最上階に
設えられた茶室

『パネルディスカッション』では、日本オラクルのインテリアデザインに関わった JID 会員の李泰久氏、大森清次郎氏を中心に、クライアントである日本オラクルの瀬谷一也氏、川端康浩氏他7名によるパネルディスカッションが行なわれました。最新の外資系企業のオフィスづくりの設計から完成までのプロセスや設計秘話について、また、デザイナーによるオフィス環境づくりが、企業に大きく貢献していることをクライアント側から紹介頂きました。また、IFIの講演者である関氏からオラクル最上階に設えられた茶室の説明を受けた後、見学を行いました。

都心の摩天楼をバックにした茶室に、多くの方々から感嘆の声が上がりました。ラウンジでは、幅広い参加者の方々の交流が夜遅くまで行われました。

今回の報告会には、平日の夕方からにも関わらず、JID 会員、賛助会員、デザイン協会理事、一般、学生など、約90名が参加。会員以外の方々の参加が60名もあり、JIDが積極的に、インテリアの国際活動を行っていることを知って頂く良いチャンスになりました。また、パネルディスカッションを通して、JID 会員の素晴らしいデザインワークを紹介することも出来ました。

本部報告

特別事業委員会

担当理事：村口 峯子
委員長：富田 恵子

こどもインテリアデザイン学校・小平 開催報告

こどもインテリアデザイン学校委員会
委員長 富田 恵子

『2009年度JT青少年育成に関するNPO助成事業』として、昨年夏より首都圏内で開催してまいりました『こどもインテリアデザイン学校』が、2月13・20・27日の3日間、小平市立中央公民館で開催されました。今回は市報等で募集したところ、なんと53名の応募があり「抽選」となりました。

選ばれた小学生20名は「おいしく、楽しく食事ができる空間をデザインしてみよう」というテーマでオリジナルのペーパーキットを用い、1回2時間、計6時間の長丁場で驚くべき集中力で使い切り、全員作品を完成させました。



2回目以降は早めに教室に入り続きの作業に入る子や、休み時間も取らずに黙々と色塗を続ける子などとても熱心な生徒も数多く見受けられました。

最終日の後半、それぞれの作品を手にも他の生徒や保護者の前で行う発表会では、発表用のメモシートを見ながらも実に堂々と、自信をもって自分のデザインしたインテリアを発表する生徒たちの姿に未来を託せる可能性を感じました。恥ずかしそうに発表に立つ生徒もいましたが、今回のメイン講師である小川委員の優しいアシストや大勢の大人たちから拍手を受け、誇らしげな笑顔で席に戻る姿はとても微笑ましく心温まるひと時となりました。

『こどもインテリアデザイン学校』も残すところあと1会場。終了後直ちに全事業のまとめ作業に入る予定です。今後インテリア教育の一助となりうる資料を残せる様、委員一丸となって「あとひと息」頑張っ参ります。御期待下さい。

本部 報告

選考委員会

担当理事：長岡 貞夫
委員長：木村 戦太郎

2010年JID賞ビエンナーレ 入賞作品展及び贈賞式

選考委員会 委員長 木村 戦太郎



受賞者と審査員による記念写真(インテリアタイムズ社提供)

2010年JID賞ビエンナーレの入賞作品展が1月21日(木)から2月2日(火)までの二週間、リビングデザインセンターのご好意によりOZONE 7階の新ギャラリーで開催されました。TONERICO デザインの白く美しい会場です。

作品展示に関しては、今回の受賞作品が4点ともスペース系だったため、展示が作品パネルだけになりそうで心配しましたが、竹中工務店のご協力により佐川美術館の建築模型が制作され、貴重な資料(基本構想・建築詳細・施工プロセス・設計図書など一式)も提供されて、視覚的にも内容的にも良い展示になったと思います。

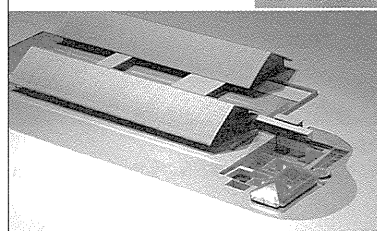
贈賞式は1月22日(金)の午後5時から入賞作品展会場

で行われ、特別審査員の下川一哉氏(日経デザイン編集長)も出席され、酒井正人理事長の挨拶、選考委員長の2010年JID賞の選考概要の説明に続き、受賞者各位に賞楯が贈呈されました。



会場サイン

入賞作品展示



佐川美術館
建築模型

■大賞

- 佐川美術館 楽吉左衛門館
楽吉左衛門+内海慎介 竹中工務店大阪本店設計部

■インテリアスペース賞

- アルケアふくろうハウス emotional switch
志村美治+井筒英理子 フィールドフォー・デザインオフィス
- 根元 八幡屋磯五郎
辻村久信 辻村久信デザイン事務所
- シネプラザサントムーン Twists ceiling — 光と空間に導かれ
滝田智美 フィールドフォー・デザインオフィス

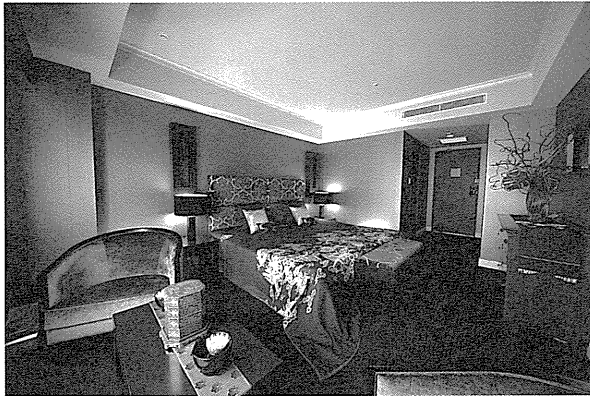
辻村久信氏は所用で欠席でしたが、他の受賞者は全員出席されて酒井理事長から賞楯を受けられました。

続いて受賞者各位に「受賞の言葉」をお願いし、大賞を受賞された竹中工務店・内海慎介氏、インテリアスペース賞のフィールドフォー・デザインオフィス 志村美治氏、同じく滝田智美氏、辻村久信デザイン事務所所員の方の順でご挨拶を頂きました。予告なしのお願いだったので戸惑われた様でしたが、それぞれに作品にかけた想いや受賞の喜びを語られ、暖かい拍手に包まれていました。贈賞式の終わりに受賞者+審査員の記念写真を撮り、その後は受賞者の方々や選考委員、JID会員の方々との交流の輪が広がり、作品を前にしたデザイン談義は6時半から始まる新年会まで続きました。

JID賞展の来場者数は308人、1日平均で25~6人でした。関係者以外の来場を誘うためには案内表示のサブタイトルを工夫すべきかと思われます。

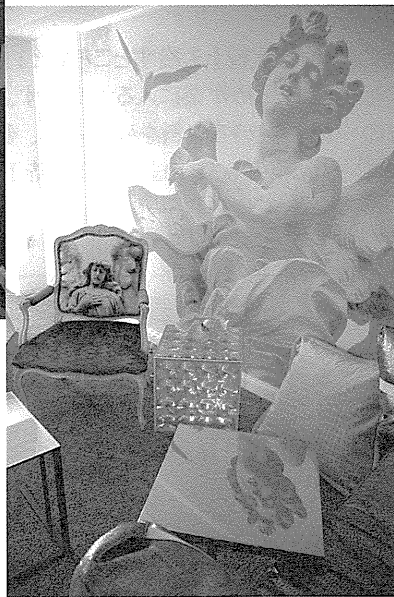
日本初のチャリティー インテリアイベント デザイナーショーハウス アット ホテルシーガルてんぽーざん大阪

関西事業支部 古市 伸子



上：1409号室 デザイン／古市伸子
「外から見た東洋美」をコンセプトとして京友禅の生地や漆家具を使用し表現

下：1412号室 デザイン／石川安江
デザインコンセプトは「モダン&トラディショナルLD」 シンプル&ホワイト
のリビング&ダイニング、すべてをミックスしたエクレクティックススタイル



2010年2月6日～20日までの2週間の期間、ホテルシーガルてんぽーざん大阪で日本初のチャリティーインテリアイベント、デザイナーショーハウスが開催されました。全米で行われているコミュニティ活動を中心としたチャリティーインテリアイベント、デザイナーショーハウスをモデルケースとしてIFDA日本支部とホテルシーガルてんぽーざん大阪が共同主催し開催されました。

デザイナーショーハウスは、約40年前アメリカで始まった大変歴史あるイベントです。老朽化によって価値が損なわれつつある邸宅やホテルなどに、インテリアデザイナーなどが個性あるデザインデコレーションで新たな命を吹き込み、これを一定期間一般公開するものです。アメリカにおいてインテリアデザイナーの存在が浸透することに大いに貢献したイベントです。デザイナーも運営ボランティアも来場者もデザインを通じて社会貢献に意義を感じ、しかもただチャリティーだけではなく、デザイナーの仕事を世に出すことや協賛メーカーの広告など経済活動に発展できるイベントとして、今後のインテリア業界に大きな役割を果たしたのではないかと感じるものでした。

今回のイベントテーマは『最愛の空間』――

過ごす場所、暮らす場所が人々の気持ちや関係を変えてしまう。家族であれ、恋人であれ、友達同士であれ。どんなに大切に思っているでもよんだ空間にいと心はすさんでしまう。知ってほしい。空間を整える大切さ。

このテーマから各デザイナーが、デザインコンセプトを作成。ホテルのワンフロア全11室を11名の現在活躍している

インテリアデザイナー、インテリアコーディネーターがデザインデコレーションを施したのです。同じテーマでありながら、各デザイナーの個性溢れた空間が一同に見られることが、何とも興味深いものでした。参加デザイナーの中には、間宮吉彦氏や辻村久信氏、JIDメンバーである石川安江、古市伸子が参加。石川安江氏は、このイベントの主催者であるIFDA協会の会長でもあります。

期間中はライフスタイル向上のために50余りのセミナー、ワークショップ、シンポジウムなどがホテル各室を使って開催され、遠方からも多数の来場者でにぎわっていました。来場者は、インテリア業界人、インテリアデザイナー、コーディネーター、学生、ホテル関係など一般客も多く、参加デザイナー達にとっては将来のビジネスに繋がっていくことも期待できそうなものになっていました。

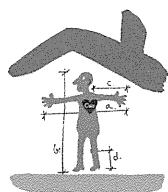
また、このチャリティーイベントの収益金は、小児がん専門施設設立を目指すNPO法人チャイルド・ケモ・ハウスに寄付されることになっています。

今後のインテリアデザイナー達が、社会貢献するという一つのモデルとして大きな一歩を踏み出した有意義なイベントになっているように感じられるものでした。

「ケアを支えるデザイン展」追記

関東事業支部 からだとこころのケアデザイン委員会
委員長 小野 由記子

1月28日、朝日新聞朝刊・生活面に当委員会発行の小冊子「Rooms for Care」が『心地よい空間を・提言の冊子発売』として取り上げられました。(右記事)その反響は予想を超え、事務局は終日問い合わせ対応に追われたのです。2月末までに「Rooms for Care」約300冊、「ケア情報マップ」120冊の購入申込を受けました。このことから、人々の関心や価値観がケアの行き届いた生活環境の豊かさへと動いている事が伺われます。当委員会ではこの潮流にデザイナー団体としてしっかりアピールして行けるよう2010年度も引き続きアクションを起します。また今後は、JIDの出版物をホームページから購入できる仕組み作りも急がれます。



「ケアを支えるデザイン展・報告書」が出来上がりました
・カラー14ページ

3月中旬に、参加、協力、後援頂いた関係者、企業、団体に郵送します。

同コンテンツをJID関東のHPに掲載しますので、会員の皆さまはそちらをぜひご覧下さい。

印刷物をご希望の方は本部事務局にご連絡ください。

日本の意匠『温故知新』物語 第1話 セミナー参加募集

関東事業支部 総務・組織委員会 委員長 池田 和修

Next Design のヒントを感じ取るセミナー企画<日本の意匠「温故知新」物語 第1話、テーマ：超ハイテク新素材『ナノフロント™』進化する繊維の話>を帝人株式会社様のご協力のもと4月23日に開催いたします。ナノフ

心地よい空間を 提言の冊子発売

身体が弱ったり気持ちが傷ついたりしたとき、心地よく過ごせる空間をつくる作ればいいか。スウェーデンの建築デザイナー、オレ・アンデルセンの提言が「Rooms for Care」のタイトルに日本語の冊子になった。

日本インテリゲンチヤデザイナー協会のメンバーが、病院などの施設や高齢者の住まいづくりで、ケアの精神を共有できる手引にしたいと願った。まぶささでイライラしない窓のデザインや、音を響かせない建築材は何かなく、安全性や維持管理とは異なる「質の高さ」を示す。専門用語は使わず、ユーモラスなイラストが絵本のよう。「日本でバリアフリーは普及したが、『段差をなくせばいい』と誤解を招く人多い。意識を一段先に進めたかった」と編集メンバーの小野由記子さん。日本の風土でどう形していくかのヒントが詰まっています。冊子は千円。

問い合わせは同協会関東事業支部 03・6666・6666(へ)。

イバー開発のエピソード、日本の最先端技術の話など、温故知新をキーワードに大変興味深い内容となっています。皆様!是非ご参加ください。

詳しい内容、参加申込方法はJID関東のホームページをご覧ください。

また、同セミナーの第2話を、秋開催予定で準備を進めています。匠の技をテーマに日本の伝統的建築の話題などを企画しております。ご期待ください。

日本の意匠『温故知新』物語 第1話

超ハイテク新素材『ナノフロント™』進化する繊維の話

日時:2010年4月23日(金) 18時15分～

場所:霞が関ナレッジスクエア

講師:帝人株式会社 工学博士 神山三枝氏

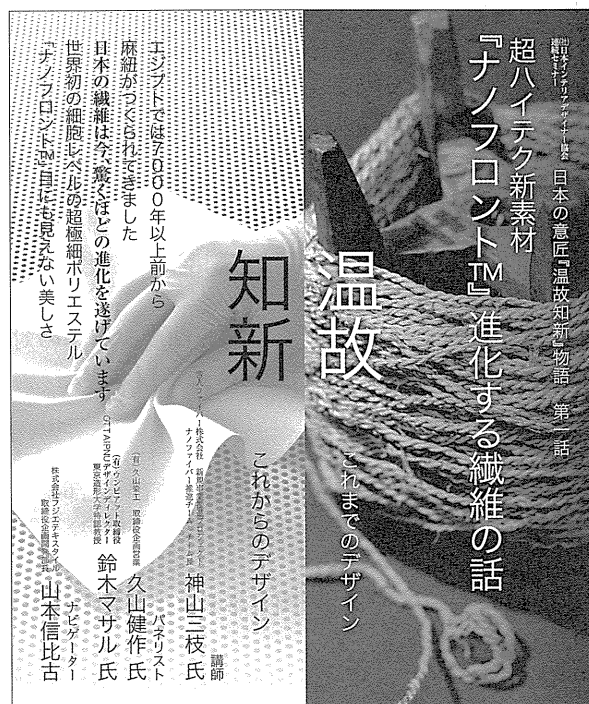
パネリスト:テキスタイルデザイナー 鈴木マサル氏

有限会社久山染工 久山健作氏

ナビゲーター:株式会社フジエテキスタイル 山本信比古氏

募集定員:100名

参加費:一般・JID会員2,500円 学生1,000円



*申込みお問い合わせは――

関東事業支部事務局 又は JID 関東 HP をご覧ください。

<http://jid-kanto.org/index.html>

『Next JID』は、あなたの手の中にある!

関東事業支部 公益法人制度改革・特別委員会
運営責任者代表 石川 尚

随分と大義的なタイトルですが、我が、社団法人日本インテリアデザイナー協会が直面している問題をご存知でしょうか? 平成20年12月1日に公益法人制度改革関連三法が施行されました。この法のもとに当協会は、平成25年11月30日までに公益社団法人または一般社団法人のいずれかを選択し、申請・移行手続きをしなければなりません。そこで、協会では第40回通常総会(平成20年5月30日)において、「公益社団法人」へ申請する可能性を前提として進めると宣言しました。



左:第2回支部公益法人制度改革・特別委員会会議風景(2009.9/19) 中・右:夜を徹しての支部公益法人制度改革・特別委員会/第2回企画部会会議風景(2010.2/28~3/1)

以降、理事会では――

- 平成21年2月17日、「公益法人制度改革説明会(理事会主催・JID顧問大澤税理士事務所)」を開催。
- 平成21年3月31日付、4支部担当理事、支部長宛に酒井理事長名で「支部公益法人制度改革・特別委員会設置および委員募集」のお願い。
- 平成21年12月8日、JID「公益法人制度改革への対応についてのアンケート(酒井理事長名)」が実施。

これを受け関東事業支部では――

- 平成21年5月29日、第16回関東事業支部・支部総会にて「関東支部公益法人制度改革・特別委員会設置」を承認。
- 平成21年6月10日、第2回関東事業支部運営会議で、特別委員会を設置。
- 平成21年7月15日、第1回関東事業支部公益法人制度改革・特別委員会を開催。

以後奇数月第3水曜日開催の定例会議5回、企画部会会議2回、作業部会会議3回、3月末現在で計10回の関連会議を重ねて参りました。

支部特別委員会の目的は、制度改革と協会の対応について内容精査し、支部指針をまとめ理事会へ答申することです。会議を重ねるごとに明確になってきましたのは、

制度改革に対しての『情報不足』です。また、今後のJID…『Next JID』の在り方を真摯に協議し、判断し、方向付ける絶好の『チャンス』であるということです。

理事会主宰の説明会、ならびにJID News等の報告事項は実施されてきましたが、その後の情報公開不足、また、その状況下で実施されました、公益社団法人・一般社団法人の選択を促すアンケートにおいては、正会員がどう判断すればよいのか分からないのが現状といって過言ではありません。

そこで支部特別委員会では、一人でも多くの支部会員が制度改革を理解出来るように右記4セクションをテーマとして情報収集・精査・整理し、制度改革に対する要因と分析を行うことからスタートしました。

■支部特別委員会活動趣旨

公益法人制度改革に対しJIDはどのように対応するのか? (2013年11月までに手続き完了させる。)

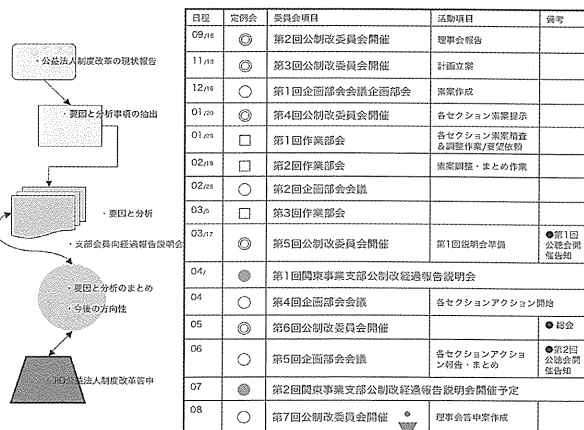
第40回通常総会(H20年 5/30)においてJIDは、「公益社団法人」へ申請する可能性を前提として進めると宣言。



平成21年度3/31付けで理事会より各支部宛に委員会設置の依頼。第16回支部総会にて「特別委員会設置」を承認、委員会スタート。制度改革に対して内容精査の上、支部指針をまとめ理事会へ答申する。

関東事業支部公益法人制度改革・特別委員会

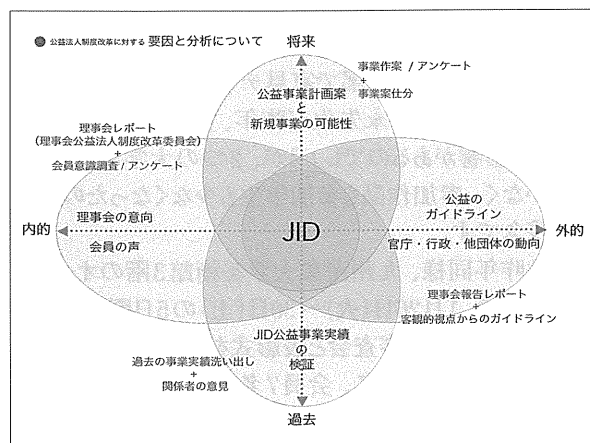
■支部特別委員会活動フローチャートとスケジュール



●公益法人制度改革に対する要因と分析

1. 外的セクションー公益法人制度改革の法体系(ガイドライン)の動向、理解、そして対応。
2. 過去セクションー50年間の活動実績、設立した協会の趣旨・理念・社会的役割と構成員の動向。
3. 将来セクションー社会的ニーズの変化とその動向、協会の向かうべき方向性。
4. 内的セクションー協会の対応確認とそれらを理解し、意識した会員の意志(意識調査アンケート)。

■公益法人制度改革に対応する支部特別委員会マトリックス図



委員会では、上記の内容について現在精査中ですが、支部会員への情報公開とご理解、また他支部との意思疎通を図る為に今春『Next JIDは、あなたの手にある!』と題し「支部公益法人制度改革・特別委員会経過報告説明会」を開催いたします。

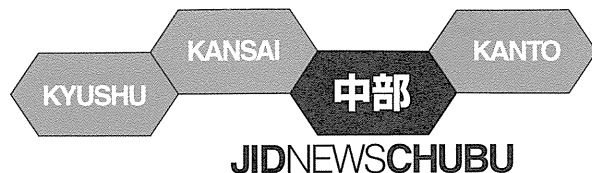
会員に皆様におかれましては、様々な状況下でご多忙かと存じますが、どうか万障お繰り合わせの上ご出席、ご協力をお願い致します。

公益法人とは何か? 公益法人のメリット、デメリット等詳細な比較検討、公益法人／一般社団法人の選択等、『Next JID』を踏まえ、より多くの支部会員の意見をお聞きし、今回の公益法人制度改革に対応する関東事業支部の指針をまとめてまいりたいと考えています。

『Next JID』は、まさにあなた、会員の手に委ねられているのです。

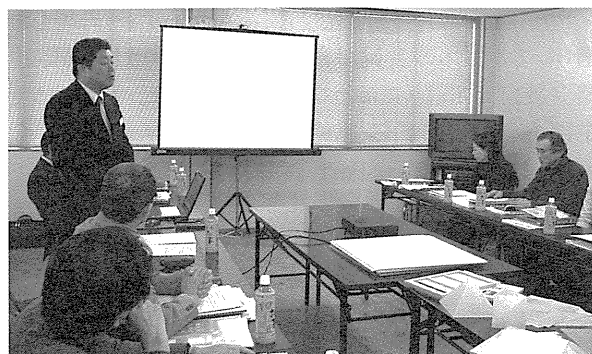
■関東事業支部公益法人制度改革・特別委員会

運営責任者: 石川尚、井出昭子、日方一城、村口峯子
企画委員: 泉修治、秋山修治、川上玲子、
長岡貞夫、石川尚、小野上勝志、
池田和修、井出昭子、櫻井良樹



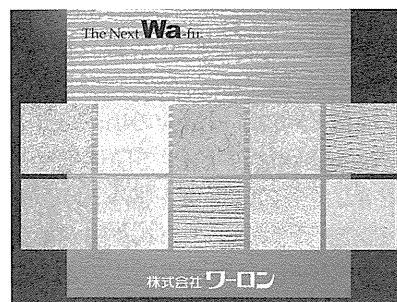
ものづくり探訪見学会

中部事業支部 竹川 好郎



12月9日(水)「ものづくり探訪」の一環で、中部事業支部ホームページにもバナー参加していただいている(株)ワーロン 清洲工場の見学会を行いました。

ものづくりを通したテーマを調査・創造・発表する場をつくり、これからの日本経済の向上に少しでも役立てることを基本思想に提案していきたいという考えのもと、「地元企業のものづくりの現場を見学し、材料・製造工程を再認識して、インテリアデザインの中でワーロン紙を使用した製品デザインができないか」これからの可能性を提案・検討できる場所を設ける、第一ステップのため正会員・ACT会員含め総勢16名が出席しました。



アクリ板と和紙のはさみ込みの製造工程～保管・梱包・出荷作業まで全て見学させていただいた後、納入作品事例・LEDを使用したワーロン製品の提案・意見交換が行われました。

今後時間をかけて、ワーロンを素材とし、どんなデザイン作品を提案していくか・提案の場をどうするか等を宿題とし、ものづくり探訪見学会を終えました。

その後名古屋にもどり、忘年会会場に移動し見学に参加できなかった会員も合流し、九州沖縄料理・泡盛を満喫。和やかななか平成21年の活動をふりかえり、新しい年にむけ乾杯しました。

中部インテリアデザイン連絡会 新年賀詞交換会の報告

中部事業支部 支部長 小宮 三辰

ここ数年間、中部インテリアデザイン連絡会の新年会はインテリア産業協会の新年会員交流会パーティーの場をお借りして5団体の会員が合流参加しておりましたが、連絡会独自で開催してはとの要望が多くなり、今年初めて中部インテリアデザイン連絡会としての新年賀詞交換会[Evening New Year Party]を1月13日に開催した。



会場は名古屋工業大学の学生会館が80数年ぶりに全面改修され、新しく入居したクラシックインテリアの本格的な



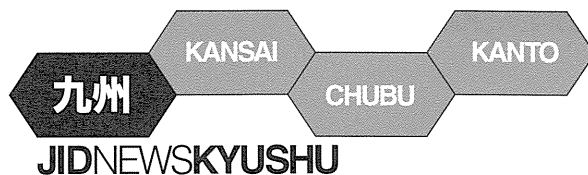
イタリアンレストラン「Cafe Sara」がインテリア学会の幹事より紹介された。参加者は5団体の会員48名で各団体の垣根を越えて和やかなうちにも情報交換に熱が入りおおいに盛り上がった集いとなった。

パーティーの始まる前には連絡会のリレーセミナーの様子(準備会を含め6回開催)を始め、5団体それぞれの活動の映像を紹介して会の雰囲気を盛り上げ、続いて音大生のバイオリンとピアノによるクラシック演奏で和みを演出し、その後インテリア学会の河田先生の第5回リレーセミナーの時の映像を再映写し参加者の好評を得た。

今回の新年会は今までにない大変アカデミックな雰囲気の中に終了し参加者には大好評で、来年からも是非続けて開催してほしいとの要望が多く寄せられ、連絡会にて検討することとなった。

JID中部が中心となって中部地区のインテリア業界をまとめる活動もまる5年経ち、5団体のまとまりもよく、連絡会として順調に軌道に乗ってきており、リレーセミナーや新年賀詞交換会が恒例行事として定着したいま、さらなる活動を模索し幅を広げる必要がある。

会員の皆様の新たな提案をお願いします。

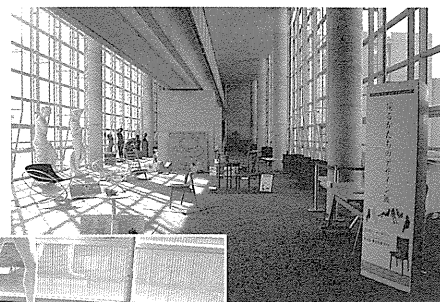


第5回 学生ファニチャーデザイン コンテスト開催!

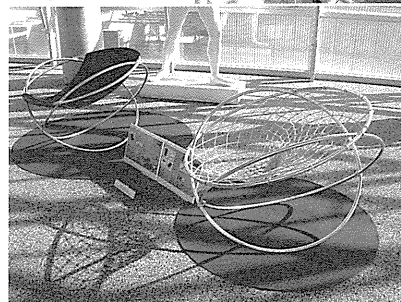
九州事業支部支部長 飯田 一博

今年で5回目の「2010学生ファニチャーデザインコンテスト」を開催しました。2年前の第3回目は50周年のキックオフイベントとして、会場を福岡の天神のアクロス福岡一階のアトリウムにて、4大学、25作品、32名の学生が参加しましたが、昨年は4大学、18作品、18名が参加してくれました。今年は2大学13作品11名が参加、今まで九州産業大学芸術学部で家具デザインを指導されていたJID会員である山永先生が昨年、退任されたことも少なからず影響があるのかもしれませんが、2つの大学からはエントリーがなく、参加作品も参加学生も少なくなったのは非常に残念です。

会場は昨年同様、九州産業大学美術館3階のオープンギャラリーで、1月26日(火)～30日(土)の5日間開催、30日(土)には作品の審査会と表彰式をおこないました。審査会は賛助会員4名、会員7名の11名を審査委員とし、審査委員長に大川の関家具代表取締役の関文彦氏を選定して第一次審査に入りました。各自最優秀賞1作品(3点)、優秀賞2作品(2点)、奨励賞2作品(1点)を選び、その結果を踏まえて2次審査を行いました。



最優秀賞: 弥永葉生
「Ring Chair」



九州産業大学美術館
オープンギャラリー

最優秀賞、弥永葉生さんの作品「Ling Chair」は円状のパイプを制作するのにどうしようかと悩んだそうです。フラフープの素材を見つけて現実味を帯びたということでした。三つのパイプの接続には緩衝剤(発泡剤)を入れ、針金で固定をしています。針金? というのはもう少しですが、ジョイントを考えれば折り畳みも可能だ?

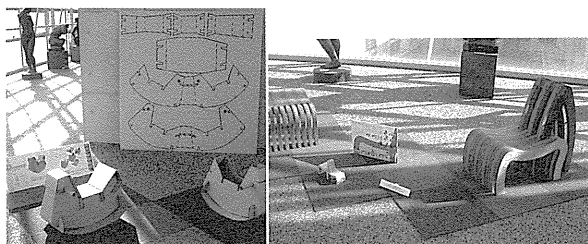
持ち運びにも?と審査員とも話しが弾んでいました。体重の加減で後ろにひっくりかえりそうですが、座ると前に加重がかかり安定します。



優秀賞：寒竹史絵
「人が集う空間における家具」

優秀賞：市丸善章
「空間イメージを想定した椅子」

優秀賞は2作品。寒竹史絵さんの作品「人が集う空間における家具の提案」は椅子とテーブルの作品ですが、テーブルは未完成ということで椅子だけの参加。テーブルに肘を引っかけて収納もできます。三脚で斜めになった椅子の幕板のジョイントなど非常に職人的な加工でした。市丸善章さんの作品は座面の低いハイバックチェア「空間イメージを想定した椅子」。座面の奥行きがなく座りにくいのでは?という質問に、太股に負担をかけないようにわざと小さくしたということでした。



奨励賞：堤大介「ダンボール木馬」

奨励賞：縄手志帆「KATARISUー語り椅子」

奨励賞も2作品。一つは堤大介さんの「ダンボール木馬」バックに切断する前のダンボールを提示するなど組み立てるおもしろさも提案していました。二つ目は縄手志帆さんの「KATARISUー語りイス」。二つの高さの違うスツールが組み合わせでいろんな展開が可能になる。二つならべればラブチェアに…学生ならではの面白い発想でした。

審査の時に、学生は審査員に作品のプレゼンテーションをして良いと伝えていました。4人の学生が審査員に自分の作品の説明を行い、審査員の意見を聞き交流をしました。その4人が上位にランクされ、プレゼンテーションの大事さを痛感しました。参加した4人の作品に、その人間性も出ていたようです。

審査終了後に表彰式を兼ねた学生と会員・賛助会員との交流会を開催。楽しい一時を過ごしました。来年も続けなければならない思いを新たにしました。

JIDNEWSKANSAI

関西

KYUSHU

CHUBU

KANTO

「USD-O 新春の集い」開催される

関西事業支部 小宮 容一



関西のデザイン8団体(OIS, KDOU, JIDA, JID, SDA, JCD, DDA)の連合組織であるUSD-O(大阪デザイン団体連合機構)の恒例の「USD-O 新春の集い」が、2月3日(水)の夕刻より、大阪日本橋のチャペルグリーンベルなんばで開催された。各団体会員、招待者等36名が参加し、近況やデザイン談義に花を咲かせた。

今年「大阪デザインセンター」が50周年を迎え、USD-Oとして支援が必要ではないかといった話も出た。

司会は、JID会員の塚口眞佐子氏が勤めた。

近年恒例になった音曲舞踊の出し物は「森久美子フラメンコ舞踊団」で、賑やかで、情熱的な舞踊は、不景気の沈んだ気分を吹き飛ばしてくれる勢いであった。

USD-Oの年間事業はそう多くなく、異なるデザイン分野のデザイナーと新春に顔を合わせることは私にとっては、嬉しいことであり、心地よい時間を過ごした。

IFI at Dubai 報告会

関西事業支部 国際委員会 委員長 塚口 眞佐子



本部に続いて関西で、さる3月5日夕刻にIFI報告会を開催いたしました。会場は、芦屋大学大阪キャンパスを小宮会員のお世話でご提供いただきました。本部から

JIDNEWSKANSAI

▼国際委員会副委員長の森美香子氏が応援に来阪され、関西から参加したペリー史子氏が加わり、二氏による充実した報告となりました。森氏からは、総会とデザイン会議の様子や会場風景、各国代表団の動きなど、オフィシャルなポイントを押さえながらも、会議進展の実情などリアルな姿を交えたお話を伺い、IFIの置かれた現状など垣間みることが出来、非常に興味深いご報告をいただきました。ペリー氏からは、ドバイ・ショック渦中の市内

の様子や建築工事の状況、インテリアデザインの傾向など、未知の国ドバイのさまざまな表情に加えて、地域独特の建造物ウィンド・タワーなどもご披露くださり、エキゾチックな香りにしばし浸ることが出来ました。二氏ともデザイン会議では、茶室の講義に添えるかたちで、ステージで着物姿でおもてなし文化のレクチャーをされるなど、会議参加以上のお役目も多々果たされたご様子で、われわれ代表団の頼もしいお姿が拝見できました。このような報告会の開催で、国際委員会の活動が全会員に広まることを願う次第です。

MEMBER'S SALON

JIDNewsを彩る会員情報の交流サロンです。
メッセージやレポート、エッセイなど、自由な会員の声をお寄せください。

「竹中大工道具館」

八十 常充 関西事業支部

神戸元町の財団法人竹中大工道具館が開館25周年を迎えリニューアルされたので久しぶりに行きました。

この施設は株式会社竹中工務店が日本の木造建築を支えてきた工匠の技と心を後世に伝えることを目的に1984年、神戸元町にオープン。日本及び海外から集めた大工道具（鉋・鑿・鋸など）の収集と保存、研究・展示を行っています。

今回のリニューアルを館側では「常設展示の特徴は展示品を以前の半分に当たる約1000点に絞り込み、見る、触れる、嗅ぐなど、体感してより理解して頂くことに、力を注ぎました」とコメントされており、展示されているノミやカンナなどの道具類は先程まで使っていたのかと思える程

の温もりが感じられます。木という有機素材をより高度に精密・緻密に仕上げるため“自分の道具”として生み出されたことが展示品を見ていると伝わってきます。

他に、古代道具の変遷や作業の様子の実物展示、外国の道具コレクションなど興味深いミュージアムです。

EXHIBITIONのお知らせ

6月より、竹中大工道具館開館25周年記念巡回展が全国4会場で開催されます。

鍛え抜かれた技と心をもって職人集団を束ね、数百年の風雨に耐える寺院や神社を築き上げる堂宮大工棟梁の仕事と人物像を迫力の模型や貴重な遺品、映像などで紹介されます。

『棟梁～堂宮大工の世界～』

第1部：堂宮大工の仕事

第2部：堂宮大工の歴史

第3部：映像で知る棟梁の技と心

巡回スケジュール

東京：6月16日(水)～7月23日(金) ギャラリー・エー・クワッド

札幌：7月30日(金)～8月29日(日) JRタワープラニスホール

神戸：10月2日(土)～11月14日(日) 竹中大工道具館

名古屋：11月20日(土)～12月28日(火)

トヨタテクノミュージアム産業技術記念館

問合せ先 —— 竹中大工道具館 TEL078-242-0216



Message from Fresh-Power

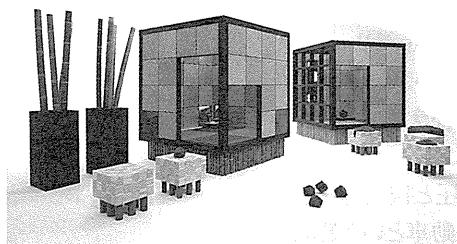
—vol.5—

関西事業支部 酒井 コウジ

昨年の春、飲み友達でありライバルでもある友人、梁本氏をJID関西の方に紹介したのがきっかけで、私も入会させていただきました。入会早々に、京都での支部総会に出席し二次会まで参加しました。そこで先輩方のデザイン論を聞くにあたり、新鮮な感動と刺激を受けました。また、オーレ・アンダソンさんの講演を聴き、丁寧なレクチャーに感激しました。その後も様々なイベントなどを催され、毎回参加しようと思いつつ、機会を逃しております。

何事も行動を起こすには、勢いや瞬発力が必要で、それもデザイン力の要素でもあると思います。今年は仕事で時間が無いという言い訳をやめ、積極的に参加しようと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

※写真は、現在進行中の移動茶室どうらく庵プロジェクトの「どうらく亭」です。



◆賛助会員

会員番号3136 リリカラ株式会社 賛助 p.27
・担当者変更 開発営業部開発課 課長 埴淵 二三夫
E-mail : hanibuti@lilycolor.co.jp

会員番号3206 アイデス有限会社 JIDNews No.242 p.19
・住所変更 〒600-8073 京都市下京区永原町153
コアロイヤル京都201
Tel:075-343-2201 / Fax:075-343-2201

会員番号3213 ナカタケ株式会社 JIDNews No.246 p.23
・住所変更 〒130-0013
東京都墨田区錦糸2-10-7 ナカタケビル
Tel:03-5637-2888 / Fax:03-5637-2889

事務局からの
お知らせ

会員異動のお知らせ

※「会員名簿」該当ページをご訂正ください

◆正会員

会員番号0466 飯田 公久 会員名簿・関東p.2
・自宅住所 〒173-0035 東京都板橋区
Tel,Fax 変更 大谷口2丁目49-7 エステートオオノ102
Tel/Fax:03-3957-3460
※事務所Tel,Fax番号も同様に変更

会員番号1143 池田 和修 会員名簿・関東p.2
・勤務先住所 〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-9-8-1203
Tel,Fax 変更 Tel:03-6300-4712 / Fax:03-6300-4713

会員番号0032 川上 信二 会員名簿・関東p.5
・社名、住所 有限会社フォルムSKR&スキャンディックハウスサロン
変更 〒255-0004
神奈川県中郡大磯町東小磯408番地
Tel:0463-73-6645 / Fax:0463-73-6644

会員番号0227 川上 玲子 会員名簿・関東p.5
・社名、住所 有限会社フォルムSKR&スキャンディックハウスサロン
変更 〒255-0004
神奈川県中郡大磯町東小磯408番地
Tel:0463-73-6645 / Fax:0463-73-6644

会員番号0974 佐々木 毅 会員名簿・関東p.6
・勤務先住所 有限会社スタジオ・アパート
Tel,Fax 変更 〒106-0044
東京都港区東麻布2-12-6 YT麻布202
Tel:03-5545-4133 / Fax:03-5545-5628

会員番号1193 橋爪 浩昭 会員名簿・関東p.9
・自宅住所 〒171-0021 東京都豊島区西池袋4-21-17-206
Tel,Fax 変更 Tel/Fax:03-5926-6990

会員番号1243 森 美香子 会員名簿・関東p.12
・E-mail変更 mikakom@cool.odn.ne.jp

会員番号1286 足永 和子 会員名簿・関西p.18
・勤務先住所 〒542-0082 大阪市中央区
Tel,Fax 変更 島之内1-18-14 美貴長堀ビル5F-A
Tel:06-6245-0601 / Fax:06-6245-0602

会員番号1295 尾崎 めぐみ JIDNews No.243 p.23
・勤務先住所 〒230-0071
Tel,Fax 変更 神奈川県横浜市鶴見区駒岡4-32-1-740
Tel/Fax:045-583-2340

JID news

企画・編集：本部広報委員会

JID News 担当理事 安藤真吾

JID News 委員長 八十常充

// 特別委員 清家淳一

// 委員 小宮容一

// 関東事業支部 石川尚

// 中部事業支部 杉崎晃久

// 関西事業支部 山本紗代子

// 九州事業支部 下田隆

—— あとがき ——

「品格」と「品質」のこと

2月初旬日本中が「品格」の話題を連日取り上げた。例の朝青龍問題…日本の国技大相撲は他のプロスポーツと違い、神事としての歴史・伝統に支えられた相撲道。単純にアスリートとして、圧倒するパワーや気迫で勝ち抜き横綱の座を得たとしても、相撲道としての「品格」が要求される。日本人でも難しい精神性を外国からやって来て数年間で理解を要求される矛盾をどの様に解決して行くのか…

最近では世界の「TOYOTA」が大量のリコールに追われている。会見で豊田章男社長は「急拡大に人や組織が追いつかなかった」と苦渋の表情を浮かべていた。私達が車に乗り始めた頃はオイルやバッテリー点検、プラグのポイント調整などは自らが行ったが、最近のコンピュータ化された車は便利になった反面、トラブルが発生するとメカニックにお願いするしかない。

世界1となった「TOYOTA」への外圧と技術者でも容易に解明できないほど高度化された自動車という製品が今回の問題を複雑にしている。

デザインの「品格」・「品質」。そして「品格のあるデザイナー」とは…今回の報道を通じて、他人ごとではなく自問自答したいと思います。

八十 常充

□次号スケジュール

・編集(企画)会議 5月7日

・原稿締切日 5月28日(厳守お願いします)

・発行日 6月末日

*MEMBER'S SALONは、みなさんからの投稿をお待ちしています。デザイン情報、ご意見、エッセイや地域での情報などをお寄せ下さい。

No.247

発行日：平成22年3月31日

編集デザイン：西尾直事務所
印刷：株式会社岡本印刷所